

豊川市新しい夏の市民まつり第6回検討委員会 議事録

- 1 件 名 豊川市新しい夏の市民まつり第6回検討委員会
- 2 日 時 令和5年1月31日（火）午前10時00分～午前11時45分
- 3 場 所 豊川市勤労福祉会館（1階）視聴覚室
- 4 出席者 25名（委員11名・オブザーバー5名・事務局9名）

委員：11名

笠原委員長・森下副委員長・長谷川副委員長・中村委員・佐々木委員・

鈴木委員・豊田委員・渡辺委員・神谷委員・木藤監事・川村監事

※滝下委員→中村委員に変更

（豊川青年会議所理事長任期満了ため：令和5年1月1日付け）

オブザーバー：5名

北村・山本・田中・武田・佐竹

事務局：9名

平賀・鈴木・小木曾・杉浦・木村・望月・若生・滝川・村上

受託会社：2名

中野・松島

- 5 欠席者 2名（事務局2名）

松原・岩田

- 6 傍聴者 4名

- 7 内容・特記事項

◆事務局

- ・前回に引き続き、公開により会議を進める。
- ・豊川青年会議所理事長の滝下委員は、理事長の任期満了により中村委員に変更となる。中村委員より自己紹介を兼ねてあいさつをお願いしたい。

（中村委員あいさつ）

- ・また、第5回検討委員会にて報告済であるが、オブザーバーの豊川警察署生活安全課の渡辺課長は、人事異動により山本課長に変更となった。山本課長におかれては、第5回検討委員会は所用により欠席されており、本日が初めての参

加となるため、山本課長より自己紹介を兼ねてあいさつをお願いしたい。

(山本課長あいさつ)

- 本日、事務局の市公園緑地課の松原課長補佐及び市スポーツ課の岩田課長補佐は所用により欠席。また、川村監事は、他の会議に出席で終了次第参加とのことであり、遅れて参加される。

◆委員長あいさつ

- 正月三が日の豊川稲荷の参拝者数は、135万人とコロナ禍前の9割ぐらいまで回復し、明るい話題が戻ってきた。新型コロナウイルス感染症も5類に引き下がると発表され、まもなくマスクを外せるようになり、脱コロナで本格的な地域経済を復興させていく取り組みも期待されている。
- 検討委員会は6回目となるが、これまでに事務局とは何度も会議をし、ようやく案が進んできた。事務局、関係者もかなり奔走してきた。
- 新聞報道でもご覧のとおり、また、市議会からの意見や市議会からの質疑に対する市の答弁を見ると実現に向けての内容となってきたのではないかと考えている。
- 皆様のご意見もいただきながら、基本計画のコンテンツもまとまってきた。
- 令和5年度はプレイベントも計画されている。規模が違うのでどこまで令和6年度の本番の練習になるかはわからないが、実行していきたい。
- 今日具体的なコンテンツ内容の検討となるが、委員としてはそれぞれの立場もあるが、この委員会では上下はないので、委員としてしっかりとご意見をいただくとともに、決まったことはそれぞれ持ち帰ってご報告いただき、共有をお願いしたい。
- 本日も忌憚ない意見交換をお願いする。

◆協議事項

(1) 新しい夏の市民まつりの基本計画(案)について(資料:1-1~1-3参照)
事務局:「資料:1-1」については、令和4年12月15日に開催された市議会の産業建設委員会(所管事務調査)の資料である。これまでの検討委員会で検討し、決定した内容を基本計画(案)としてこのような形に事務局でまとめ、市議会の産業建設委員会へ市商工観光課より説明・報告をした。
本来なら、検討委員会で委員の皆さんにご確認いただいたものを資料とすべ

きであったが、第5回検討委員会で決定した内容も盛り込む形とし、限られた短い時間の中で資料を作成することとなったため、委員の皆さんには事後報告となったことをご理解いただきたい。なお、委員長、副委員長には市議会への説明の前に内容等を確認いただいていることを申し添える。

産業建設委員会の委員の各市議会議員からは様々な質問やご意見等もあったが、市産業環境部の森下部長、市商工観光課の望月課長より説明を行い、概ねまつり開催に向けて一定のご理解をいただけたのではないかとと思われる。

:「資料：1-1」について事務局より説明

※開催場所、日程等の決定した事項と今後ブラッシュアップが必要となるコンテンツ、会場イメージ、警備計画、駐車場等の大枠を説明

:第5回検討委員会まででは実施コンテンツの内容詳細までの検討には至らなかったため、本日は細かな内容について事務局案をベースにご検討いただきたい。

:「資料：1-2」について事務局より説明

※令和6年度のまつりの開催内容の詳細、イベント内容、警備計画等、各事務局案を説明

:「資料：1-3」について事務局より説明

※第5回検討委員会の終了後に令和4年12月23日締め切りで、各委員へ所属団体等からのイベント企画提案及び参加型企画の運営・協力の提案を依頼、豊川信用金庫と豊川青年会議所より提案有

事務局：豊川信用金庫の川村監事がまだ到着されていないため、事務局より豊川信用金庫からの提案を説明させていただく。

※提案内容のポイントを中心に事務局より説明

:サブ会場でも多くの企画を提案いただいた。予算等の兼ね合いもあり、全ての企画が実施できるわけではないが、体験ブースについては各市民団体等にも声かけをし、自主的な企画の発想、運営を促しながら実施できるとよいと考えている。こういった提案を大事にして、1つでも多く実現できるとよいと事務局では考えている。

：豊川青年会議所からも提案をいただいているので、中村委員よりその提案内容について、説明をお願いしたい。

委員：「スプラトゥーン」は子どもに伝わりやすいと考えた。ずぶ濡れになる音楽フェスが世界各地で開催されており、人気があるため提案した。

：サブ会場については、まつり感として、「屋台」を提案した。

：手筒まつりでもあったが、「市民総踊り」をやる意味を、いろいろな世代に伝えていくことはいいことだとして提案した。

：青年会議所のメンバーにも意見を求めるとよかったが、今回の提案は私の個人的な意見である。

事務局：これらの企画を実施する際の費用について、今回の検討委員会では提案していないが、全体で概ね5,000万円を予算としてみている。見積も受託者を経由して聴取したり、集めたりしている。すべての実施コンテンツや内容が決まっているわけではないので、見積もり取りづらい状況がある。

：次回の検討委員会では、概算予算についてもさらに詰めた上で提案したい。

委員長：メイン会場有料席は、1人あたりの金額をどのように想定しているか。

事務局：1人2,000円程度、約5,000人の入場を想定している。

委員長：それに耐えうる内容を検討していく必要がある。

：受託者のアルファポイントから提案の補足を求める。

受託者：主にプロジェクションマッピングについて補足する。通常プロジェクションマッピングは建屋に映し出すが、それがない形になるため、仮設の構造物、スクリーンを設置し、光と音、映像、仕掛け花火などを活用して展開することを提案している。

：ステージから一番遠い観客席は100m以上もあり、後ろからでも見えるためには大きなスクリーンが必要となる。

：打ち上げ花火や手筒花火との連動に関しては、見え方について物理的な面と技術的な面での双方を検証する必要がある。

：豊川市内の観光地等地域の映像を取材し、素材として取り入れたい。

：手筒まつりで実施していた仕掛け花火（絵・文字等）を今回のまつりでは展

開しないことから、映像によりエンドロールを制作し、イベント製作者等の関係者や協賛者の氏名・会社名を出して紹介すること提案している。

：手筒花火やそれぞれの演出コンテンツを様々な形で組み合わせて、演出構成をする。

：昼間は、豊川青年会議所の提案も参考にしつつ、水鉄砲大会等一般向けのイベントを実施する。

委員長：手筒花火については、1回7名の出演で計7回までに絞っている。個人的には、ここまで絞っていいのかとの懸念を私は持っている。

：ステージは11種に分かれ、打ち上げ花火、プロジェクションマッピング、手筒花火などを織り交ぜて複合的に実施していく形である。

：具体的な映像イメージ等があった方が委員の皆さんもより分かりやすいので、次回検討委員会には用意するようにしてほしい。

：かつての手筒まつりとはだいぶイメージが変わるといった点から、委員からの意見を求める。

委員：地元で同じような、ミュージック花火や手筒花火を開催しているが、今回提案のプログラムは、手筒花火を少し細かく分けすぎのような印象がある。3セットくらいに分割してはどうか。

委員：検討委員会も第6回目ということで、これまでのみなさんの意見をまとめたばかり、わかりやすくなっている。

：前回の検討委員会の中で、コストは安全警備が一番かかるだろうということだった。誘導経路の安全確保や有料席・無料席の規模、飲食の規模はどのようなイメージかを教えていただきたい。市民はそこを気にしている。

：ステージについては、ミュージック花火の映像を具体的に見てみたい。

委員：ステージプログラムを見ると、すべてのコンテンツが分かれているように感じるが、プロジェクションマッピングと手筒花火を同時に実施することはできないのか。今後の演出で考えていけばいいことだと思うが。

：水鉄砲大会等のイベントでは、ぜひ参加したくなるような景品があるとよい。

委員：ステージプログラムで、プロジェクションマッピングやミュージック花火は

変化があると思うが、手筒花火は変化するのか。各プログラムコンテンツは同じ内容ではなく、コンテンツは変化した方がいいと思う。

：打ち上げ花火の打ち上げ場所は自衛隊駐屯地内で打ち上げることができるように調整できた。

委員長：自衛隊駐屯地内で打ち上げ花火を上げさせてもらえる自治体は全国的に珍しいと思う。ありがとうございます。

オザバー：事務局からの説明・提案を聞いた中では、だんだんできあがってきており、素晴らしいものができるのではないかと思います。

：消防からは、災害等の際の予防の面ではどのような対処をするのか、災害等発生時の対処、本部の配置等も詰めていただければと思う。

委員長：メイン会場では防災シートでスクリーンをつくり、30mの煙火保安距離を確保するなど、対策は立てる予定。

オザバー：交通規制の関係だが、資料にも記載があるが、打ち上げ花火を自衛隊駐屯地内でやるということで多少規制が楽になるように思う。平日の交通量は多いが、土・日であればうまく調整ができると思う。今後、細かい部分について調整しながら規制を決定していきたいため、よろしく願いしたい。

オザバー：雑踏警備と会場内警備についての懸念をお話する。有料席のステージについて、2時間中、どのようにチケットチェックをするのか、お酒に酔った方の対応をどうするのかなど懸念がある。無料席の立見入場人数についても、制限管理するか、無制限に入れるのか、雑踏事故が起こらないように、どのようなルールや整備を行うのかが課題である。

：メイン会場西側スペースの制限についても、きちんとしたルール、案内方法を明確にして対応してほしい。

委員長：西側は一般の立入は禁止とする予定。しっかりと警備と安全対策を立てたい。また、ご指導いただきたい。よろしく願います。

オザバー：生活安全課の課題としては花火のことである。手筒花火については、保安距離について消防と話をされているが、令和5年度のプレイベントの打ち上げ花火についてはどのようなになっているか。

委員長：令和5年度のイベントについては、この後の議題であり事務局より説明させていただきます。

委員：警察は、公安委員会の意見を申し上げる立場であり、署長の意見ではなく、警察本部の意見がかかわってくる。そのため、消防との検討、公安委員会の意見聴取などの手続きが必要となるため、時期的に余裕をもったスケジュールを示しながら対応をしてほしい。

委員：第5回の検討委員会までで、ここまで整備をされてきているため、素晴らしいと思う。

：先ほど、手筒花火の回数で分け方を少なくという意見があったが、私は反対で、これまでの手筒花火では間が空いて白けてしまうことがあったため、このくらい分割して実施したほうがよいのではないかと思う。

：この手筒花火は、町内が行うような神事での形の手筒花火か？

委員長：神事のような形とは切り離し、あくまでイベントの手筒花火。

委員：魅せる手筒花火であれば、このくらいあってもよいかと思う。

：会場の使い方について、メイン会場とサブ会場に分けて実施するということで、桜トンネルのところまで実施すると、人の流れがだいぶ混雑をするように思う。まつり全体で何名くらいの来場数を想定しているか。過去の手筒まつりでは何名くらい来場しているのか。2～3万人くらいか。

事務局：過去の手筒まつりでは、主催者発表でのべ8万人の来場である。

委員：手筒まつりは夕方からの開催であったが、今回は子ども向けとして昼からの開催となると、駐車場の入替も想定される。当資料では会場のゾーニングが大きく4つの島にわかれているが、かなり混雑するのではないか。警備人員はかなりの人数が必要となるのではないか。

委員長：有料席等は手筒まつりと比較しても規模感ほとんど変わっていない。

駐車場の計画台数は今までどおりか、数はどうなっているのか。

事務局：過去の手筒まつりに比べて、会場出入口の点からはメイン会場は安全確保しやすいと思われる。また、駐車場は最低2,750台を確保し、それ以上確保できるよう企業等とも調整していきたい。

委員：これだけの人数がここに集まるということに対し、人流として不安が残る。

委員長：豊川公園内を広く会場として活用することで、過去の手筒まつりに比べて人を分散でき、少しは楽になると考えている。

委員：キッチンカーや体験ゾーンなどはまつりの最後まで実施するので、手筒まつりとは異なり、大丈夫かと思っている。いかに分散できるかがポイントではないか。

委員：会場全体は手筒まつりの時よりも広がっているので、分散できるのではないか。

事務局：手筒まつりでは露天商のみの出店だったが、今回は、キッチンカー等のゾーンもあり、会場全体は広げられると考えている。

委員：ここまでまとまってよかったと思っている。特にメインイベントとなる夜のステージ実施内容の部分に協議をとったことだったので、プロジェクションマッピングと花火を交互にするのは飽きない面ではいいが、見ていて疲れないかと思う。なので、重ねて組み合わせて演出し実施することは素敵だなと思う。

：令和6年度の1回だけではなく、今後も継続してまつりを続けていくことを考えると、毎年プロジェクションマッピングを続けていくのは厳しいのではないか。持続可能なまつりを想定して、考えることも必要ではないか。

：もっと規模感を抑えて緩やかなまつりの企画を考えないと、厳しい時もやってくるし、続かないのではと思っている。

：公共交通機関を使ってくださいといったアナウンスは必ずされると思うが、そのあたりの検討もしておく必要がある。

：夜の時間帯のサブ会場の陸上競技場の開放について、人の出入りの想定、警備について具体的に落とし込んでおいた方がいいと思う。

委員長：ステージでプロジェクションマッピングを実施と決めているが、今回の予算の中で、どこまでできるのかという課題はある。場合によっては制作の企画コンペなども検討し、詰める必要がある。

：また、企画の中にもあるが、大学との連携により学生の作品参加ができるようにして、変化をもたせられないかと考えており、いずれも詰めていく必要

がある。

委員：企画にある手筒花火の7名×7回は、揚げ手は考えずに7名をセットしているのか。手筒花火は各町内でそれぞれ継承してきているので、揚げ手の調整はしっかりしてほしい。

：手筒まつりは、トイレが1か所だったが、会場がこれだけ広くなり、これまでの数では少ないので設置個所と数の対応をお願いしたい。

委員長：手筒花火の揚げ手は、手筒まつりでは15団体ぐらいになり、それらを全部紹介して実施すると時間が3時間になったのが課題であった。それを絞るにも絞り切れないという難しさがある。そのため、今回はゼロベースとして町内を超えた組織を設けて対応できないかと考えている。しかしながら、まだそのような組織があるわけではなく、そのためには音頭をとる中心となる人材も必要となり、これからの課題である。

委員：資料を拝見し、非常に様々な具体的な内容の提案があり、楽しそうなイベントになりそうだとわくわくしている。とにかく、くれぐれも安全に配慮して準備し、実施していただきたい。

委員：若い世代には、屋台の前など、同級生などと会いながら楽しめる場所の存在は結構大事だと思う。

：今までの手筒まつりは食べながら、話しながら、花火が見られるという形がよかった。会場内の各コンテンツについて、全てがつながるようなものがないと盛り上がらないのではないかと。それが光なのか、音なのかかわからないが。

：自分の地元の祭礼で実施されている「からくり花火」だと、手筒花火の保安距離内で、中国煙火も活用しながら、子ども達も参加できるのではないかと。

：水鉄砲大会では、市内の荒れた竹林の整備と連動させるストーリーがあるとまつりの意義が高まると思う。

：「みたま祭り」でやっている踊りなどは意義があると思うし、会場全体を結ぶという意味では市民総踊りもいいのかなと思った。

副委員長：手筒花火は、10数秒で終わる。次から次に出すとか、火薬を変えれば色の変化がつけられるし、煙が大量に出るのでその煙に光を映し出してもよ

いと思う。

副委員長：事務局には、大変な作業をしてもらい感謝する。

：協賛金は2,000万円となっているが、なかなかハードルが高い。

：手筒まつりでは、スポンサー獲得が、仕掛け花火の協賛などで分かりやすい形だったが、今回は、プロジェクションマッピングで企業CMを流して対応するとか、見える形で協賛者の紹介をする方法を考える必要がある。

：打ち上げ花火について、自衛隊駐屯地内を使用させていただけるとのことでありがたい。終了後の清掃活動が大変だが、自衛隊の敷地内は簡単には入れないため、清掃もお願いできればありがたい。手伝いができずに申し訳なく思う。

：今回は、昼イベント、夜のステージ・花火となり、開催時間が長くなるので、従事者の体調管理についても万全を期してほしい。

委員長：商工会議所が2,000万円の協賛金を集めるということは大変なことである。予算の収入5,000万円のうち2,000万円が市の補助で、有料席の売上が1,000万円、残り2,000万円が協賛金として、5,000万円が構成されている。

：有料席の人にもうける、協賛者にも賛同いただける内容としなければならない。

：いろいろなご意見があったが、総じて内容的にはおもしろいのではないかと思う。まだまだ安全面、内容など詰めなければならないが、本たたき台を基に、詳細について詰めていきたい。

：デジタルアートといえば豊川となって、広がっていけば思っている。

(2) 令和5年度新しい夏の市民まつりプレイベント(案)について(資料:2参照)

事務局:「資料:2」について事務局より説明

※令和5年度のプレイベントの開催日時、場所、コンテンツ(打上花火、子ども参加型メディアアート、グルメ・体験、夏の体験イベント)、警備計画等の各事務局案を説明

：令和6年度のメイン会場である芝生広場は、令和5年度からの工事となり、当日は使用できないため、陸上競技場及びその周辺を活用する。しかしながら、陸上競技場は使用に関する制約も多いので、実施可能なことを可能な範囲内で実施する。

：また、打ち上げ花火の見え方の実証実験をする。(2号玉・仕掛花火)

：市役所の西の壁面を活用したインタラクティブアートの実施も想定している。

：プロジェクションマッピングは、専門の事業者に依頼すると高額となることが想定される。受託者からの提案で、名古屋造形大学と連携をしていきたい。

委員長：プレイベントについては、時間的にも予算的(800万円)にも限られているため、事務局主導で検討を進めていき、その内容を皆さんで審議いただくということにしたい。次回の検討委員会でも議論のタイミングがあるため、ぜひ意見を寄せてほしい。

(3) 今後のスケジュール等について(資料：3参照)

事務局：第7回検討委員会を令和5年3月29日(水)に開催させていただく。

当初の予定よりも委員会の開催回数が増えており、申し訳ないがご出席いただくようお願いしたい。

：令和5年度の実行委員会組織については、次回検討委員会にて提案をさせていただくが、検討委員のメンバーは、このまま実行委員として加わっていただきたい。

：令和5年3月末までには基本計画の案をご承認いただき、さらには令和6年度に向けて詳細を詰めていきたい。

委員長：改めて、令和5年4月から実行委員会が組織される。プラスアルファの人選も今後、検討していきたい。

(4) その他

事務局：議題も多く、様々なご議論をいただきありがとうございました。

：それでは第6回検討委員会を終了する。本日は大変ありがとうございました。